

# 公開実用 昭和63- 141136

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-141136

⑬ Int. Cl. \*

B 65 D 5/74  
5/44  
51/22

識別記号

庁内整理番号

A-6540-3E  
E-6540-3E  
6929-3E

⑭ 公開 昭和63年(1988)9月16日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 開封の容易な密封容器

⑯ 実 願 昭62-32413

⑰ 出 願 昭62(1987)3月4日

⑱ 考 案 者 植 田 和 雄

徳島県板野郡北島町太郎八須字西の川10-1 四国化工機  
株式会社内

⑲ 考 案 者 藍 原 武 彦

徳島県板野郡北島町太郎八須字西の川10-1 四国化工機  
株式会社内

⑳ 出 願 人 四国化工機株式会社

徳島県板野郡北島町太郎八須字西の川10-1  
外4名

㉑ 代 理 人 弁理士 岸本 瑛之助

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

開封の容易な密封容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

外から順次外熱可塑性合成樹脂層(21)、紙層(22)、アルミニウム箔層(23)および内熱可塑性合成樹脂層(24)で構成されかつ頂壁(14)の外熱可塑性合成樹脂層(21)および紙層(22)の一部が除去されて、そこに残存した部分が注出口形成用薄肉部(33)となされている直方体状容器本体(11)と、

容器本体(11)の上端部に被せられてそこに固着されかつ薄肉部(33)と相対する開口部(45)およびこれの縁部より上方に突出した雄ねじ付筒状部(46)を頂壁(42)に有するキャップ状補強カバー(12)と、

筒状部(46)上にのせられている環状スペーサ(47)と、

スペーサ(47)を介して筒状部(46)にねじはめられている袋ナット(48)と、



筒状部(46)およびスペーサ(47)の内側に位置しかつ袋ナット(48)の周壁(51)と同心となるように袋ナット(48)の頂壁(52)に垂下状に設けられかつ下端に切刃(54)を有する筒状切断具(53)とからなり、

切刃(54)下端から薄肉部(33)の下面までの距離(A)がスペーサ(47)の上下方向の厚み(B)に等しいかそれより小さくなされている、

開封の容易な密封容器。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 産業上の利用分野

この考案は、ジュースのような流動性食品が収められる密封容器に関する。

#### 従来の技術とその問題点

上記の用途に用いられる容器としては、缶、紙容器が知られている。缶は焼却することができないために、その使用後の始末が悪く、いわゆる缶公害を招くという問題点がある。また、缶は、内容物の封入後に、レトルト殺菌を行なうために、内容物の風味を損なうという問題点

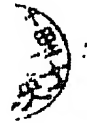


がある。このような問題点は紙容器により解決されるが、紙容器にはつぎのような問題点がある。容器の頂壁に、これの一部を破断することにより注出口を形成すると、注出口の周縁部にその破断面が露出することになるが、その破断面は缶のそれと比較して、平滑でないために、注出口が不潔な印象を与える。

この考案の目的は、従来の缶、紙容器の問題点を解決した飲料用密封容器を提供することにある。

#### 問題点を解決するための手段

この考案による開封の容易な密封容器は、外から順次外熱可塑性合成樹脂層、紙層、アルミニウム箔層および内熱可塑性合成樹脂層で構成されかつ頂壁の外熱可塑性合成樹脂層および紙層の一部が除去されて、そこに残存した部分が注出口形成用薄肉部となされている直方体状容器本体と、容器本体の上端部に被せられてそこに固着されかつ薄肉部と相対する開口部およびこれの縁部より上方に突出した雄ねじ付筒状部



を頂壁に有するキャップ状補強カバーと、筒状部上にのせられている環状スペーサと、スペーサを介して筒状部にねじはめられている袋ナットと、筒状部およびスペーサの内側に位置しかつ袋ナットの周壁と同心となるように袋ナットの頂壁に垂下状に設けられかつ下端に切刃を有する筒状切断具とからなり、切刃下端から薄肉部の下面までの距離がスペーサの上下方向の厚みに等しいかそれより小さくなされている。

#### 実施例

この考案の実施例をつぎに図面を参照して説明する。

開封の容易な密封容器は、第1図および第2図に示すように、平面視前後より左右に長い直方体状容器本体(11)と、これの上下端部にそれぞれ被せられている上下のキャップ状補強カバー(12)(13)とを備えている。容器本体(11)の縦方向の4つの角には横断面L字状の補強片(19)が当てがわれている。

容器本体(11)は、つぎに説明する2つの特徴



点をのぞいて、周知の形態のものであって、その説明は簡単に留めるが、頂壁(14)、胴壁(15)および底壁(16)と、頂壁(14)と胴壁(15)とがなす前後方向の2つの稜にそれぞれつらなりかつ胴壁(15)上に重ね合わされてそこに融着されている2つの上部耳(17)と、胴壁(15)と底壁(16)とがなす前後方向の2つの稜にそれぞれつらなりかつ底壁(16)上に重ね合わされてそこに融着されている2つの下部耳(18)とからなる。また、容器本体(11)は、第6図に示すように、外から順次外熱可塑性合成樹脂層(21)、紙層(22)、アルミニウム箔層(23)および内熱可塑性合成樹脂層(24)で構成されている。

つぎに、2つの特徴点について説明する。その第1の特徴点は、上部耳(17)の形状が従来のものとは異なっていることである。上部耳(17)は、第5図に示すように、頂壁(14)の左右両縁部につらなる表側構成部(31)と、胴壁(15)の上縁部につらなる裏側構成部(32)とからなり、両構成部(31)(32)は、同図中鎖線で示すように、



いずれも始めは、単に互いに重なり合わされかつ三角形であったものが、互いに融着されかつ先端部が除去されて台形状に形成されている。

第2の特徴点は、容器本体(11)の頂壁(14)に注出口形成用薄肉部(33)が設けられていることである。第6図に示すように、頂壁(14)の外熱可塑性合成樹脂層(21)および紙層(22)の一部が除去されて、そこに残存した部分が注出口形成用薄肉部(33)となっており、これは平面より見て円形をなす。

上補強カバー(12)は、熱可塑性合成樹脂によって概ねキャップ状に形成されたものであって、周壁(41)および頂壁(42)よりなる。周壁(41)の下端寄りの部分には内向きの突条(43)が設けられ、これが容器本体(11)の胴壁(15)に融着されている。突条(43)には、これがなす四角形の4つの角にあたる部分に切欠き(50)が設けられている。頂壁(42)の上面周縁には環状堤部(44)が設けられている。そして、頂壁(41)には、容器本体(11)の注出口形成用薄肉部(33)と相対する



開口部(45)およびこれの縁部より上方に突出した雄ねじ付筒状部(46)が設けられ、この上に環状スペーサ(47)がのせられるとともに、スペーサ(47)を介して筒状部(46)に袋ナット(48)がねじはめられている。頂壁(42)の環状薄肉部(46)の周辺部下面には環状のアルミニウム箔(49)が融着され、その下面は容器本体(11)の頂壁(14)の薄肉部(33)の周辺部上面に融着されている。スペーサ(47)および袋ナット(48)はいずれも合成樹脂製である。袋ナット(48)は、周壁(51)および頂壁(52)よりなり、その頂壁(52)には垂下円筒状切断具(53)が一体的に設けられている。切断具(53)は、スペーサ(47)および筒状部(46)の内側に位置しかつ袋ナット(48)の周壁(51)と同心となっている。切断具(53)の下端にはのこ歯状の切刃(54)が形成されている。切刃(54)下端から薄肉部(33)下面までの距離(A)はスペーサ(47)の上下方向の厚み(B)より小さくされている。

下補強カバー(13)は、上補強カバー(12)より





開口部(45)および雄ねじ部(46)を除去した構造のものであり、その説明は省略する。

補強片(19)は、熱可塑性合成樹脂製のものであり、その両端は上補強カバー(12)の周壁(41)の切欠き(50)にはめ込まれている。また、補強片(19)はその長さ方向複数箇所の位置において胴壁(15)に接着されている。

容器を開封する際は、袋ナット(48)を筒状部(46)より一旦外してスペーサ(47)を取り去り、再び筒状部(46)にねじはめる。こうして、筒状部(46)に袋ナット(48)をねじはめ、袋ナット(48)をねじっていくと、やがて切刃(54)が薄肉部(33)の上面周縁部に突き当たる。さらに袋ナット(48)をねじっていくと、切刃(54)が同周縁部を切断することになり、その切断箇所の内側に注出口が形成される。そして、筒状部(46)より袋ナット(48)を取り去ることにより、注出口より内容物を注出することができるし、その後に筒状部に袋ナット(48)を被せることにより容器を再封することができる。



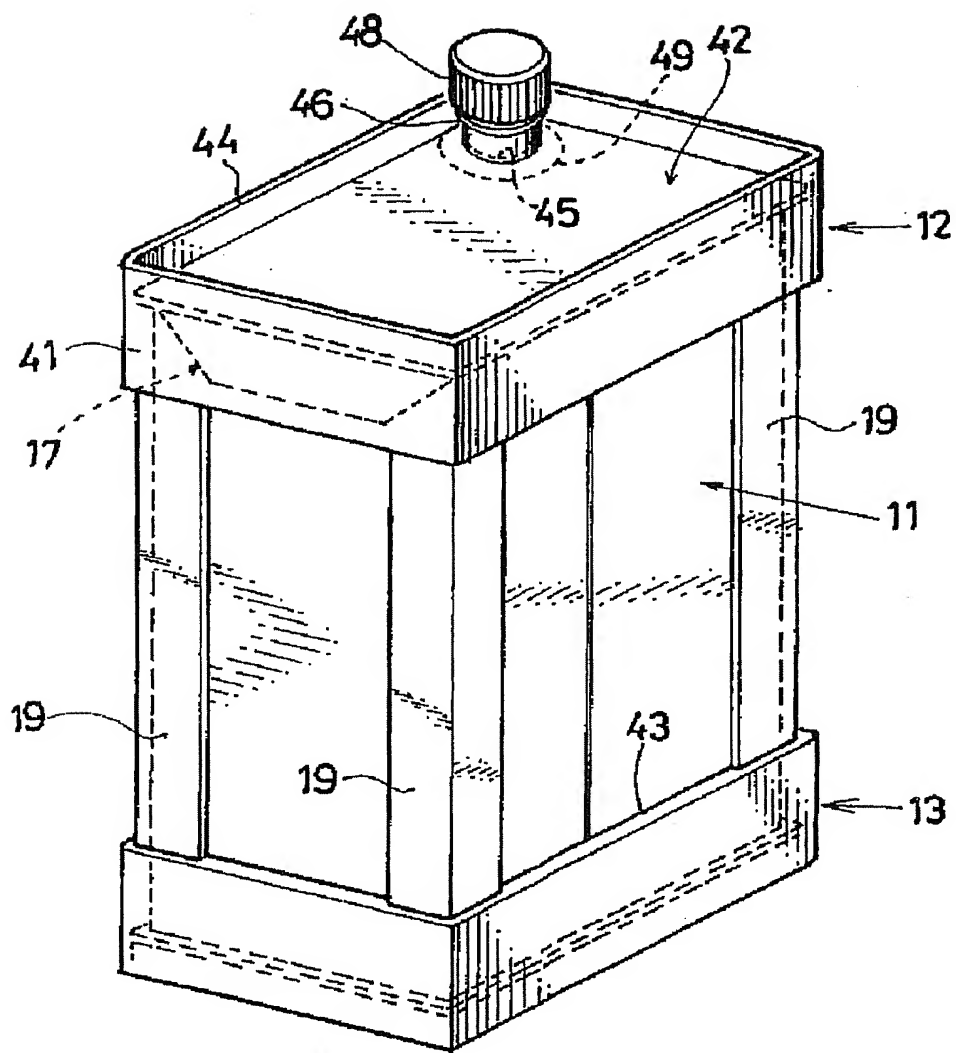
### 考案の効果

この考案によれば、容器本体の頂壁に設けられた薄肉部を、袋ナットに設けられた切断具により切断することにより注出口が形成され、注出口は補強カバーに隠れて外から見えないから、注出口が不潔な印象を与えることがない。しかも、注出口から取出された内容物は筒状部に案内されてこぼれることなくコップなどに注ぐことができるし、袋ナットにより容器を簡単に再封することもできる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案による容器の実施例を示し、第1図は斜視図、第2図は分解斜視図、第3図は平面図、第4図は縦断面図、第5図は成形過程の説明図、第6図は第3図のVI-VI線にそう断面図である。

(11)…容器本体、(12)…カバー、(14)…頂壁、(21)…合成樹脂層、(22)…紙層、(23)…アルミニウム箔層、(24)…合成樹脂層、(33)…薄肉部、(41)…カバー周壁、(42)…カバー頂壁、(44)…

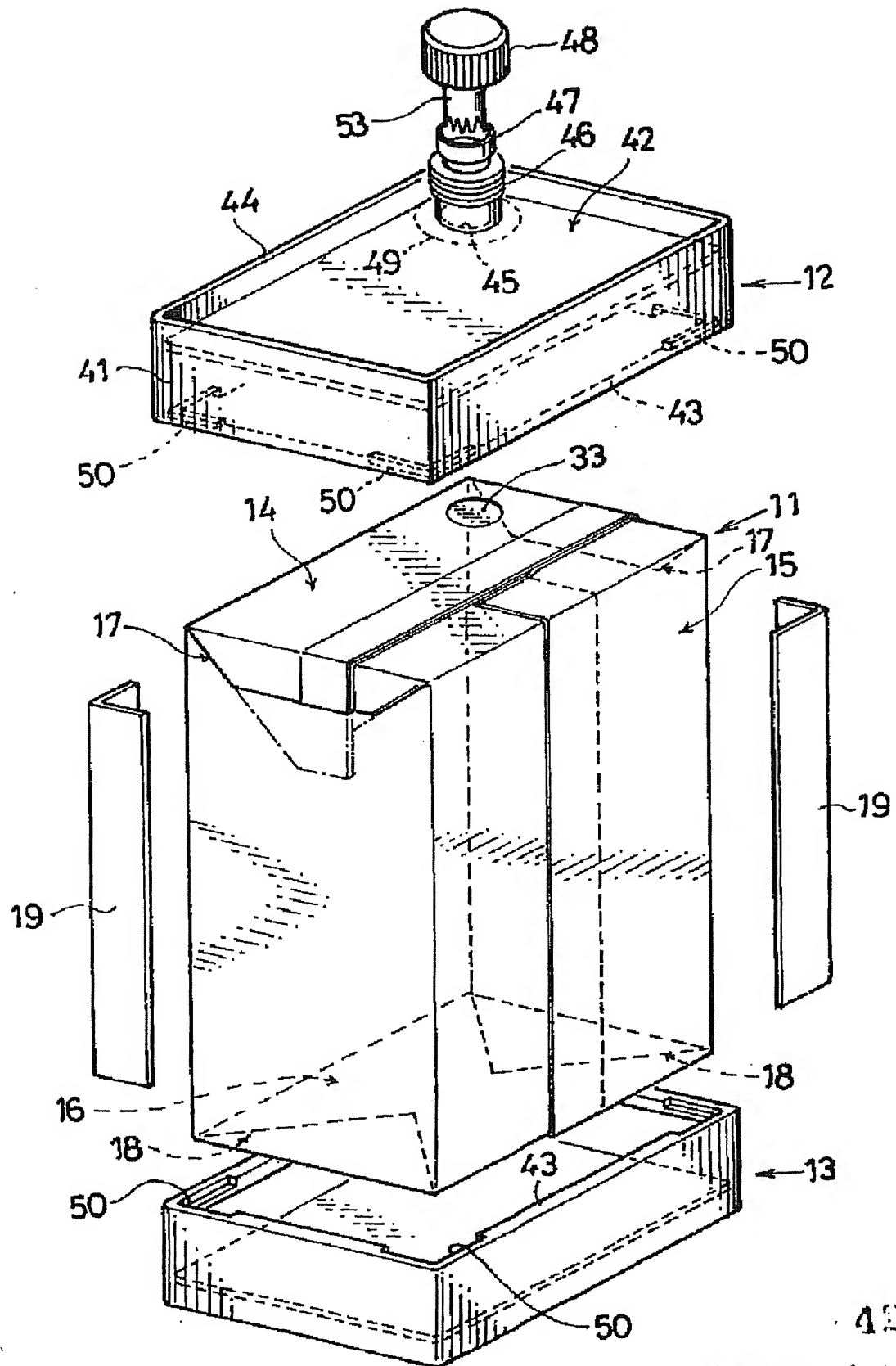


第 1 図

422.

実開 63-141136

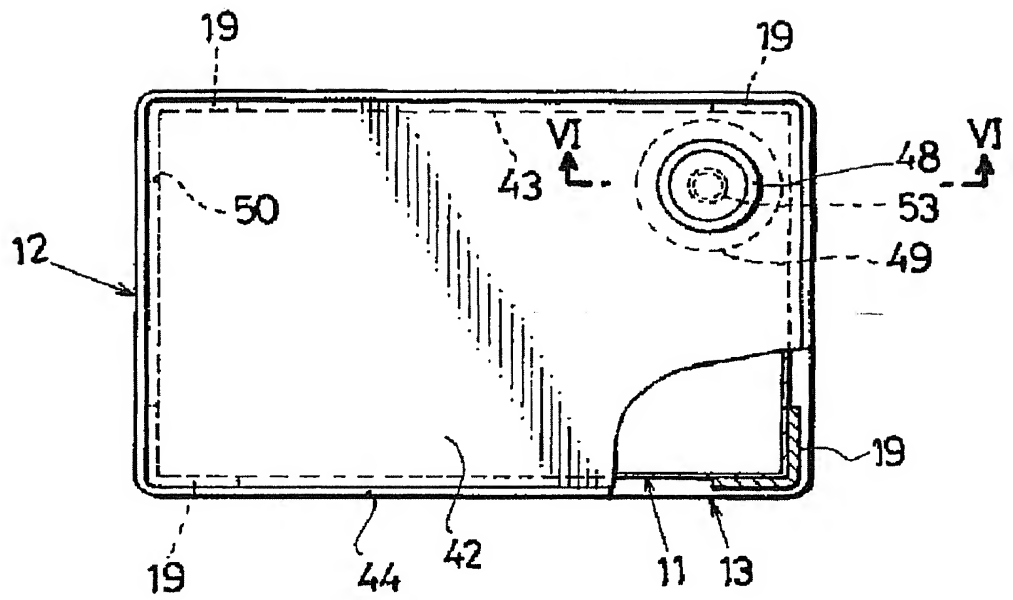
代理人 岸本 瑛之助・外



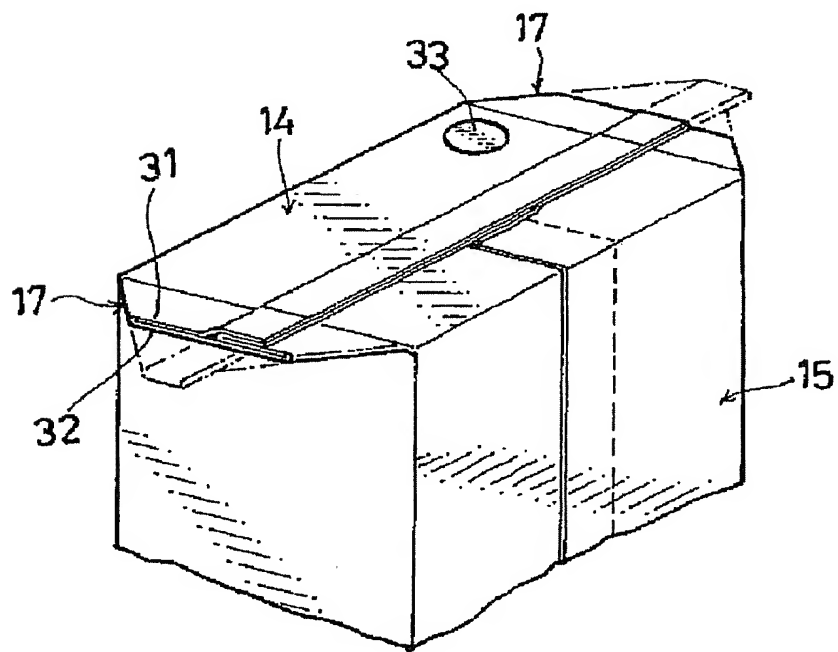
第2図

実開 63-141136

代理人 岸本 瑛之助



第 3 図

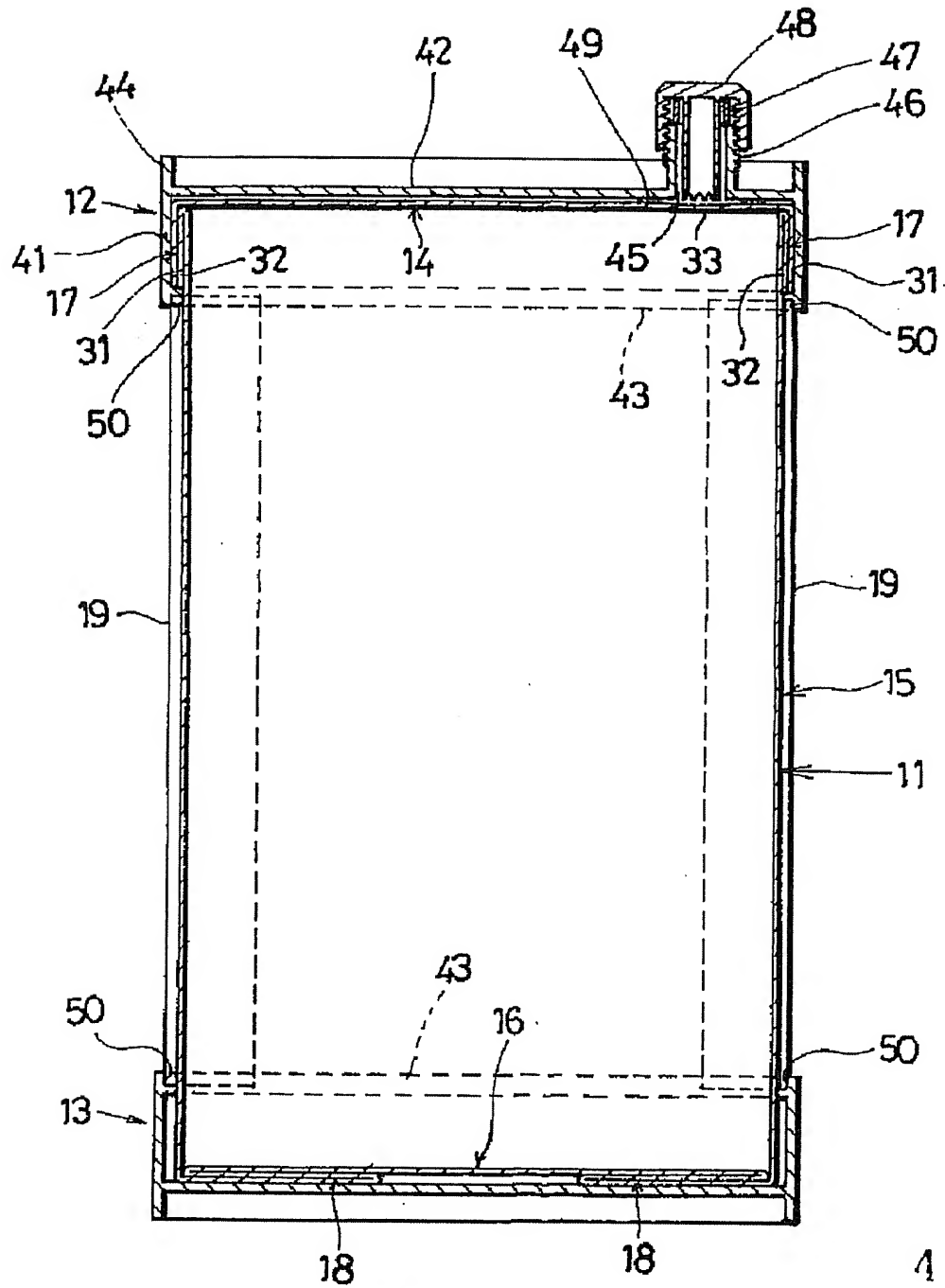


第 5 図

424

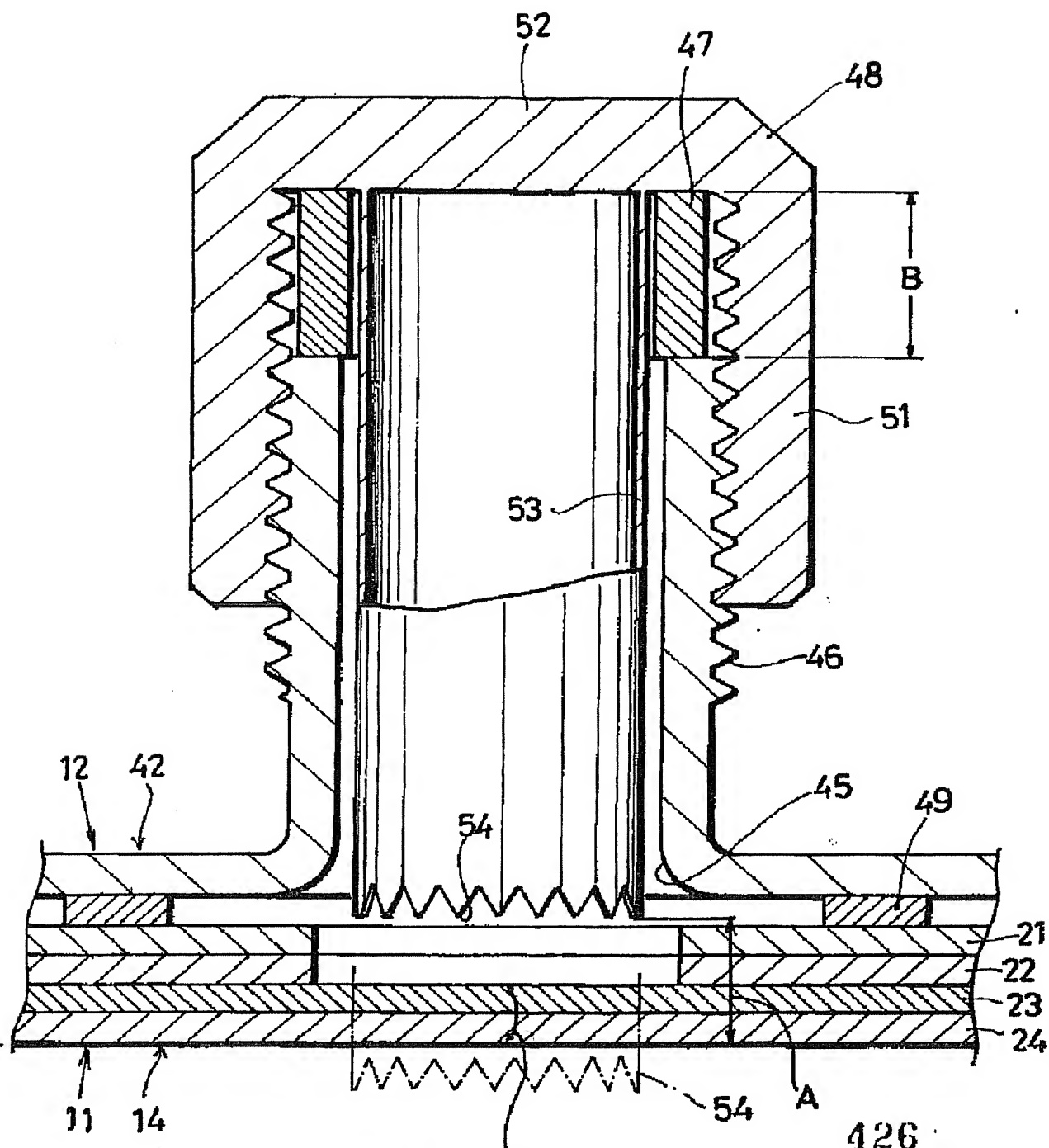
実開 63-141136

代理人 岸本 瑛之助 外 4 名



第4図

実開 63-141136



第 6 図

33

実開 63-141136

代理人 岸 本 瑛 之 助 ・ 外 4 名